

No. 41	演題名 [外来における高齢糖尿病患者のインスリン自己注射の確認 ～特に手技について～]
	発表者 樋口 亜生 (東白川村国保診療所) 共同研究者 桂川恵美、榊間るみ、瀬戸垣静、今井利佳、荻田和子

1

**外来における高齢糖尿病患者の
インスリン自己注射の確認
～特に手技について～**

東白川村国保診療所
看護師 ○樋口亜生 桂川恵美 榊間るみ
瀬戸垣静 今井利佳 荻田和子

2

はじめに

- ◆ 東白川村の人口は約2100人、高齢化率44%
- ◆ 当診療所通院中のインスリン自己注射を行っている患者も高齢になっている
- ◆ 患者が独居、高齢者世帯になる中で、当診療所では長年手技確認を行っていなかった
- ◆ 長期間インスリン自己注射を行ってきた患者が、インスリンを正確に安全に注射できているのか、操作手技の確認を行う必要があった

加茂郡東白川村の人口は約 2100 人、高齢化率は 44%を占め、当診療所通院中のインスリン自己注射を行っている患者も高齢になってきています。

患者が独居、高齢者世帯になる中で、当診療所では長年手技の確認を行っていませんでした。長期間インスリン自己注射を行ってきた患者が、インスリンを正確に安全に注射できているのか、手技の確認を行う必要がありました。

3

目的

インスリン自己注射の手技が正しく行えているか確認する

目的は、インスリン自己注射の手技が正しく行えているか確認することです。

4

対象

外来通院中の自己注射を行っている患者10名

男性2名 女性8名

年齢 : 67～93歳
平均年齢 : 75.5歳

対象は、外来通院中の自己注射を行っている患者 10名。男性 2名、女性 8名、年齢は 67 歳～93 歳。平均年齢は 75.5 歳でした。

5

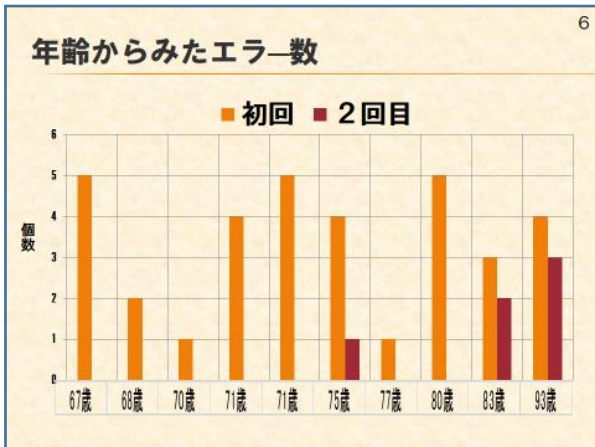
方法

- ◆ 診察までの待ち時間を利用して個室で面談
- ◆ 練習用の器具を使って注射の一連の手技を普段通りに行ってもらう
- ◆ メーカー発行の教育パンフレットにあるチェックリストを用いて18項目を評価
- ◆ 1回目に出来なかった箇所は指導し、次回受診時に再評価する

方法は診察までの待ち時間を利用して個室で面談を行いました。

そして、練習用の器具を使って注射の一連の手技を普段通りに行ってもらいました。

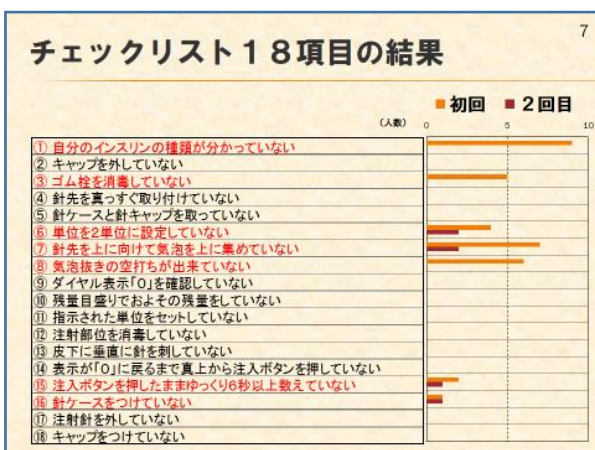
看護師は、メーカー発行の教育パンフレットにあるチェックリストを用いて18項目を評価し、1回目に出来なかった箇所は指導して、次回受診で再評価しました。



結果です。年齢からみたエラーの数を表にしました。

年齢を問わず、全員になんらかのエラーがあったことが分かります。

そして、指導後の再評価でエラーが続いたのは、75歳、83歳、93歳の患者でした。



次にチェックリスト18項目の結果です。まず、そもそも①「自分のインスリンの種類が分かっていない」が9名でした。次に、注射を打つ前の準備段階である③「ゴム栓を消毒していない」が5名、次に、準備段階である空打ちの⑥「単位を2単位に設定していない」が4名、⑦「針先を上に向け

気泡を上を集めていない」が7名、⑧「気泡抜きの空打ちが出来ていない」が6名でした。

そして実際、針を刺してインスリンを注入する段階では⑮「注入ボタンを押したままゆっくり6秒以上数えていない」が2名、最後片付け段階においては⑯「針ケースをつけていない」が1名でした。

1回目に出来なかった箇所を指導して、次の受診で再評価したところ、空打ちの段階である⑥「単位を2単位に設定していない」が2名、⑦「針先を上に向け気泡を上を集めていない」が2名、注射の段階である⑮「注入ボタンを押したままゆっくり6秒以上数えていない」が1名、片付け段階である⑯「針ケースをつけていない」が1名という結果でした。

チェックリストにはない項目外のエラー

(93歳女性)
 混濁させて効果が得られるインスリンを混ぜていなかった → 方法を知らなかった

(83歳女性)
 指示された単位を自己判断で2単位減量して注射していた → 食事量に応じて自己調節していた

この患者2名はどちらも要支援2、独居手技に関してはその後もエラーが続き、指導と確認の頻度を増やして対応している

そして、チェックリストにはない項目外のエラーとして分かったことは、93歳女性は、混濁させて効果が得られるインスリンを混ぜていませんでした。これは、方法を知らなかったからだ分かりました。また、83歳女性は、指示された単位を自己判断で2単位減量して注射していました。これは、主治医に報告した以上に食べられない日が続いたため、食事量に応じて自己調節していたということでした。

この患者2名はどちらも要支援2、独居の方で、手技に関してはその後もエラーが続き、指導と確認の頻度を増やして対応しています。

考察

9

- ◆ チェックリスト以外のエラーに気付けたことも含め、一連の手技確認を行ったことに意義があった
- ◆ 高齢になるほど手技は粗雑になり再エラーも多く、今後も継続した指導が必要と考える
- ◆ 自己注射器は進歩している 教育する看護師も昔の記憶にとらわれず、患者各々の器具について学び直すことは必要不可欠である

考察にうつります。チェックリスト以外のエラーに気付けたことも含め、一連の手技確認を行ったことに意義がありました。

高齢になるほど手技は粗雑になり再エラーも多く、今後も継続した指導が必要と考えます。

また、自己注射器具は進歩しています。教育する看護師も昔の記憶にとらわれず、患者各々の器具について学び直すことは必要不可欠だと分かりました。

結論

10

- ◆ 長期間インスリン自己注射を行う患者には、定期的な手技確認が必要である
- ◆ 高齢になるほど、頻度を増やして手技確認を行う必要がある

結論

・長期間インスリン自己注射を行う患者には定期的な手技確認が必要である

・高齢になるほど、頻度を増やして手技確認を行う必要がある

11

ご清聴ありがとうございました

ご清聴ありがとうございました。